硬式野球部体質改革プロジェクトの発足について

テーマ：革新金農野球部
対話から勇気と覚悟で今を未来へ繋げる

金足農業高校・硬式野球部
未来創造プロジェクト

2022年９月６日

◆未来創造プロジェクト発足の背景と目的

拝啓、時下益々ご健勝のことと、お慶び申し上げます。
平素は、金足農業高校硬式野球部を応援していただき、まことにありがとうございます。
金足農業高校硬式野球部は、9月6日、未来創造プロジェクトを立ち上げ、硬式野球部の「体質改革」を実行していく事をここに宣言いたします。

野球部員同士のいじめ事件に伴い、9月6日、日本学生野球連盟から対外試合禁止三か月という処分を受けました。私たちは、このことを非常に重く受けとめています。
学校関係者、硬式野球部関係者、OB会、保護者会の各メンバーで話し合い、選手間の体罰というスポーツ・コンプライアンスに逸脱する硬式野球部の体質を改革していくこと、指導者が徹底的に学び直しを行い、経験則ではない、マネジメントやリーダーシップ、コーチングという選手指導法を確立させること、野球部員が心に傷を負うことなく、高校野球人生をよりよいものにすること、を目的に本プロジェクトをスタートいたします。

本プロジェクトは、数多くの一部上場企業の企業変革を指導する、大西みつる氏（株式会社デザインリーダーシップ/ヒューマンクエストCEO、立命館大学経営学部客員教授）の協力を得て、プロジェクトを推進していきます。
金足農業高校硬式野球部は、Re-Born、生まれ変わります。
「革新金農野球部・対話から勇気と覚悟で今を未来へ繋げる」をスローガンにチームの進化を目指します。
引き続き、ご支援、ご協力のほど、お願い申し上げます。

未来創造プロジェクト　メンバー 一同

◆なぜ、今回の不祥事が起こったのかの徹底分析

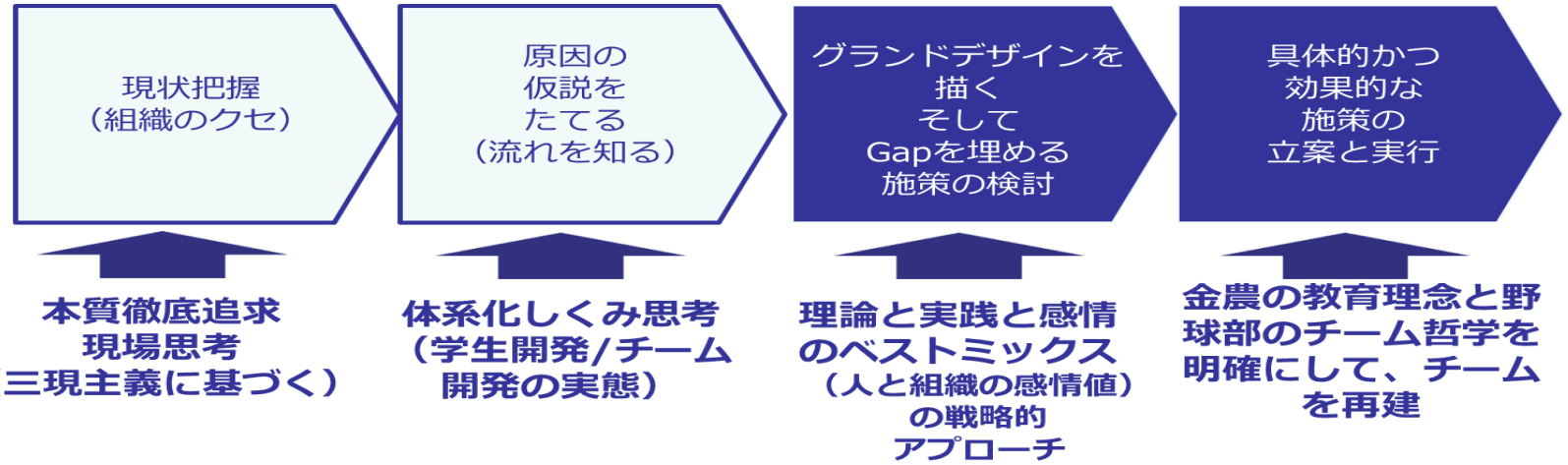
①硬式野球部の部員同士のいじめ事件により、対外試合禁止処分へ。

②学校側（野球部関係者）の選手に対するヒアリング調査、現状の把握が行われきた。

③再発防止として、硬式野球部の体質改革が求められている事、何よりも選手諸君のモチベーションをアップすることが大切。

④秋田県における人口減少、少子化、野球人口減少で、ますます、金農に学生（選手）が来なくなることが危惧される。企業と同じで良くない情報は拡散され、金足農業野球部のブランディングが失墜する危機的状況にある。

金足農業高校野球部の体質を変え、持続的成長可能なチーム作りの基盤をつくる



◆浮かび上がってきた原因と体質改革のポイント

現状把握

チームの哲学・ビジョンが曖昧

＊監督、スタッフが一枚岩でない
＊指導と育成に対する間違った信念の存在（アンコンシャスバイアス）

マネジメントの質が低い

＊目標の明確化、役割の明確化、リーダーシップの発揮、修正のマネジメントが機能していない
＊中泉監督のリーダーシップ、コーチのリーダーシップの改革（相手に伝わる伝達力、巻き込み力）

選手育成法が旧態依然

＊育成方針が定まっていない
＊科学的根拠の欠如
＊良い選手が育たない（育成システムが確立されえおらず、その場限りの指導）
＊ティーチング中心でコーチングは使いこなしていない

しきたり文化の中での上下関係

＊してはいけないのしきたりの多さ
＊時代ごとにかわるしきたりの意味
＊できていないの修正は体罰

真の原因

原因①
チームスタッフのチームマネジメントの力量不足

＊観察力の欠如
＊対話の欠如
＊方針の曖昧さ
＊人材活用
＊スピード感

原因②
しきたり文化による選手の意識と行動

＊しきたりによる上下関係
＊対話ではなく、体罰で下級生にわからせる
＊対話不足
＊関係作り

改革ポイント

チーム哲学の明確化

＊チームの理念と指導方針の軸の形成
＊チーム・監督方針の一本化と役割の明確化
＊スタッフ間コミュニケーションの改革

マネジメント力の強化

＊マネジメント、リーダーシップ、コーチングの学びの場と指導スタイルを徹底的に変革する
＊プロジェクトの設置によるチーム改革の実施
＊プロジェクトメンバーで計画のPDCAを回す
＊学校、OB会、保護者会へのコミュニケーションで協力体制の構築

選手育成の体制整備

＊企業で活用されているタレントマネジメントを導入し、徹底的に「個」を鍛える
＊選手の主体性を引き出す、メンタルトレーニングの実施
＊野球技術研究会の発足（チーム内コミュニケーションの場づくり）
＊練習時間の短縮化による野球の仕方改革（練習量を選手の仕事量で考える。栄養、休養トレーニングのサイクルを回す）

◆プロジェクトの全体スケジュール

	8月	9月	１０月	１１月	１２月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
①プロジェクトスタート ②現地での構想会 ＊関係者様との進め方の打合わせ	今後の進め方を説明し、方針と取り組むことを共通認識します										
③選手によるチーム開発のためのしゃべり場 ④学校長・指導者・OBによるしゃべり場 しゃべり場 ⑤父兄によるしゃべり場	金足農業高校野球部に関わる関係者の方々と未来のチーム作りをガチの対話を通じて、デザインし⑥へ繋げる										
⑥③～⑤を基にチームの未来をデザインする	チームの理念とビジョンと行動指針を徹底して、知る、理解する、実践する。										
⑦指導者/父兄のための人づくり講座 ⑧プレーヤーのための人づくり講座	学び方、マネジメント、リーダーシップなどをテーマに学びの場を通じてチームの「絆」をつくります			徹底して新たなチーム文化、ウイニングカルチャーをつくり込んでいく							
⑧選手へのメンタルコーチングの実施	チームは「個」から成り立っている。弊社メンバーによるメンタルコーチングで傷ついた心、逆境からの立ち直りを１対１のメンタルコーチングで支援する										

未来創造プロジェクト体制

<プロジェクトの組織づくりと役割について>

　未来創造プロジェクトは、単に今回のいじめ事件改善策を実行するということではなく、未来に向けた金足農業高校野球部が持続的成長が可能なようにチームを体質改革していくことになります。
チームスタッフ、ＯＢ、保護者、学校など、複数の利害関係者がいますので、まずは、プロジェクトの組織運営体制を明らかにして、プロジェクトメンバーの役割を決めることが大切です。
現場を預かる部長、監督、コーチを中心に本プロジェクトは、体質改革のために外部である弊社が関与します。そのパイプ役、プロジェクトを統括して進めていくために、OBであり、社会人野球ホンダの監督として実績のある長谷川寿 氏がプロジェクトマネージャーという役割をつくり、本プロジェクトを推進します。

<未来創造プロジェクト・体制について>

＊未来創造プロジェクトオーナー	金足農業高校学校長	松田　　聡
＊未来創造プロジェクトリーダー	金足農業高校野球部OB会会長	石井　雅樹
＊未来創造プロジェクトマネージャー	金足農業高校野球部OB会副会長	長谷川　寿
＊未来創造プロジェクトメンバー	船山部長、中泉監督、コーチングスタッフ、トレーナー	
＊プロジェクトバックアップメンバー	（株）ヒューマンクエスト　大西みつる・服部飛鳥	

再発防止対応

アジェンダ

掲示板

- 事象からの問題抽出
- なぜなぜ分析による課題抽出
- 課題から対策案の決定
- 年間スケジュールへの反映
- 体制
- 宣言

事象からの問題抽出

事象から絞り込んだ問題点

掲示板

	加害者	被害者	他選手	校長 部長 監督 コーチ 他選手
1次的問題	…….	…….		
2次的問題		……	……	
3次的問題				……. 保護者 OB会

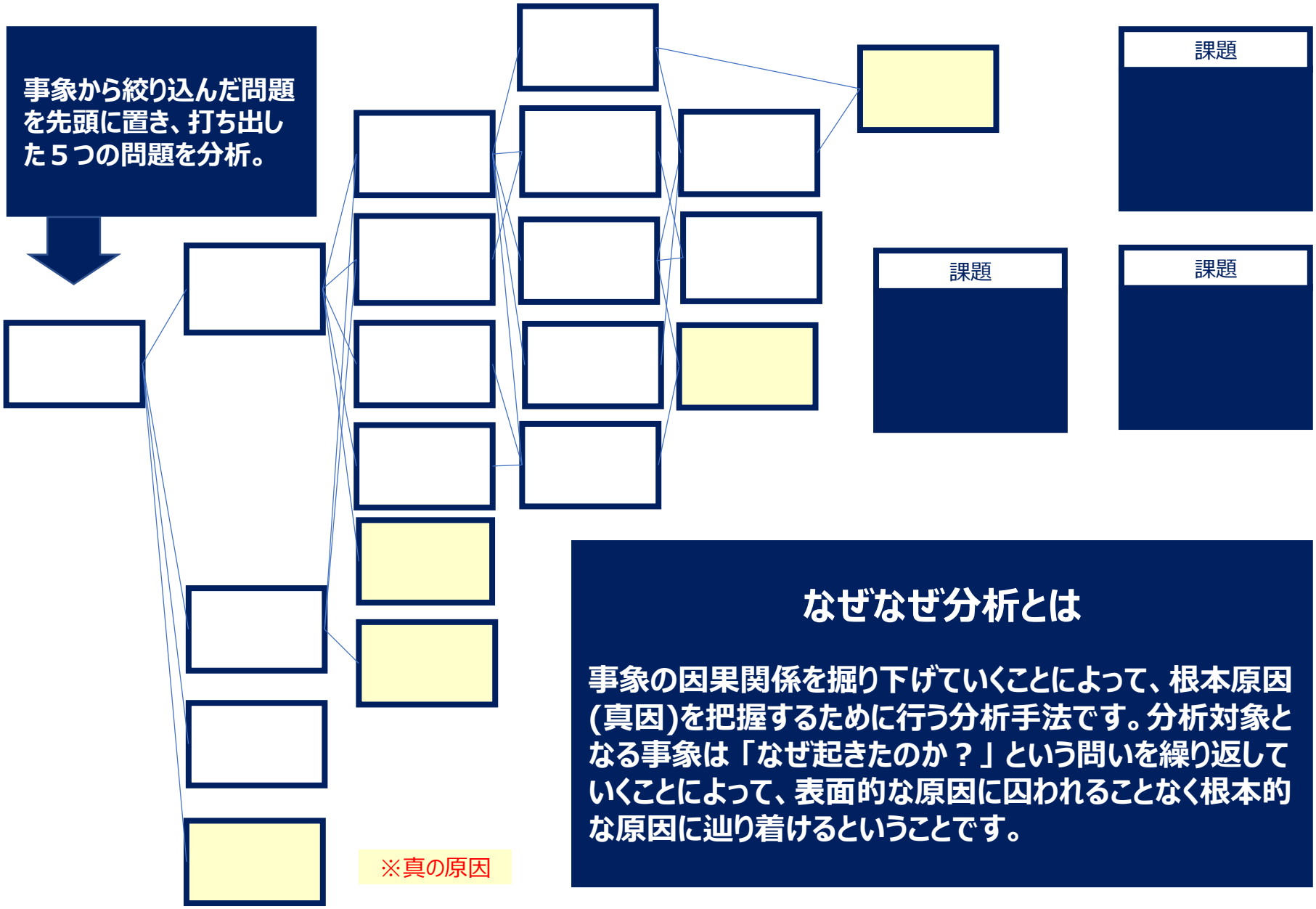
原因究明と再発防止が必要

なぜなぜ分析による課題抽出

なぜなぜ分析

掲示板

事象から絞り込んだ問題を先頭に置き、打ち出した５つの問題を分析。



なぜなぜ分析とは

事象の因果関係を掘り下げていくことによって、根本原因(真因)を把握するために行う分析手法です。分析対象となる事象は「なぜ起きたのか？」という問いを繰り返していくことによって、表面的な原因に囚われることなく根本的な原因に辿り着けるということです。

課題から対策案の決定

課題の整理

掲示板

課題	課題	課題	課題
いじめ暴力防止や正義感醸成の教育実施	いじめ暴力未然防止のルール、フローの設定	支援が必要な選手の早期発見と指導方法とルールの決定	下級生への指導方法やルールの設定
課題	課題	課題	課題
普段から気軽に話しができる環境の醸成	リスク（いじめ暴力）を想定して未然防止ができる仕組みと体制	間違った上下関係からの脱却	怒りのコントロール

いじめ暴力防止、正義感醸成、いじめ暴力未然防止、支援選手の早期発見、下級生への指導方法・ルール、気軽に話せる環境の醸成、リスク管理、間違った上下関係、怒りのコントロール

切り口

【体制作り】　【教育】　【ルール】　【コミュニケーション】

課題から対策案の検討

掲示板

施策案の検討と立案

ありたい姿：
いじめ暴力事件を再発させない。いじめ暴力事件に繋がる小さなことでも発見して未然防止する

課題	切り口	施策	有効性
いじめ暴力防止や正義感の醸成	体制作り	体制図・役割作成	◎
いじめ暴力未然防止の時のルールやフローの設定	教育	いじめ相談窓口設定	○
普段から気軽に話しが出来る環境の醸成	ルール、決め事	正義感醸成（SMシップ）の実施	◎
リスクを想定して未然防止ができる仕組みと体制	コミュニケーション	いじめ防止教育の実施	◎
支援の必要な選手の早期発見と指導方法の決定		アンケートで状況把握（野球部独自）	△
間違った上下関係からの脱却		いじめ防止年間計画策定	◎
下級生への指導方法やルールの設定		いじめ発見時のルール・フロー作成	◎
怒りのコントロール		支援が必要な選手の早期対応	◎
		声掛けや面談、顔色確認	◎
		伝える力（コミュニケーション）研修	◎
		いじめ防止のルール作成	◎
		リスク管理マネージメント研修	◎
		怒りのコントロール研修	◎

施策案の決定と明確化

掲示板

	誰が	誰に	いつ	誰と（情報共有）				
				選手	保護者	指導者	学校	OB
＜課題解決＞								
体制図・役割作成	指導者	校長	10/17				●	●
いじめ窓口設定	指導者	校長	10/17		●		●	●
正義感醸成（SMシップ）勉強会	OB会	選手	※		●	●		●
いじめ防止教育	担当教諭	選手	※		●	●		●
いじめ発見時のルールフロー作成	指導者	校長	10/17		●		●	
支援が必要な選手の早期対応	指導者	選手・保護者	※		●			
声掛け・顔色確認	指導者・保護者	選手	※					●
伝える力（コミュニケーション）研修	外部業者	選手	※			●		
いじめ防止のルール作成	指導者	校長	10/17				●	
個人面談	指導者	選手	※					
怒りのコントロール研修	外部業者	選手	※			●		
リスク管理マネージメント研修	外部業者	指導者	※					

※年間計画表を参照ください

年間スケジュールへの反映

対策案の年間スケジュールへの反映

掲示板

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
野球部保護者	・大会、遠征 ・総会等 ・説明会		▽三送会	▽新入生保護者説明会	▽関東遠征 ▽総会	▽ 春大	出陣式/激励会▽	▽夏大	▽総会	▽新チーム保護者説明会	▽ 秋大	▽球納め会	
学校	いじめ防止の取組				▽三者面談			▽アンケート（全校）			▽アンケート（部活動）		
OB会	イベント	▽役員会	▽OB入会式・総会		▽役員会 ▽野球部年間計画確認（歯止）			▽OB戦 ▽役員会	野球部計画進捗確認（歯止）▽		首脳陣ご苦労さん会▽	▽役員会	
再発・未然防止	・忘れない日 ・選手・監督面談 ・棚卸・ルール設定 ・説明会 ・情報交換（三者 ・情報交換（保護者・指導者） ・研修・勉強会		面談▽ ▽未然防止ルール棚卸・新ルール決定（選手） ▽三送会（保護者・指導者）	▽体制・ルール・フロー説明 ▽情報交換（保護者、指導者、OB会） ▽スポーツマンシップ勉強会	▽総会 ▽いじめ防止研修		出陣式/激励会▽		▽未然防止ルール棚卸（選手） ▽総会	▽6処分を忘れない日 ▽体制・ルール・フロー説明 ▽情報交換（保護者、指導者、OB会） ▽スポーツマンシップ	▽面談 いじめ防止研修▽ ▽怒りのコントロール/伝える力研修	▽球納め会 ▽リスク管理マネージメント研修	
スキルUP	研修・勉強（仮）	▽KT法		▽SNSリスクマネージメント研修						チームビルディング研修▽	▽リーダーシップ研修 ビジョントレーニング▽		

関係部門が連携して計画を推進する

体制

未然防止・再発防止体制と手段（歯止め）

掲示板

学校

いじめ防止対策委員会
校長・教頭・教務主任・生徒指導主事・教育相談部・当該学科主任・当該学級担任・スクールカウンセラー

相談窓口

相談・報告

相談

指導方針・役割分担

野球部
＜情報把握の手段＞
・OB役員会で年間計画の立案と進捗状況報告
・各イベントでの情報交換
・個人面談
・顔色確認

※各イベント
新入生説明会、出陣式
OB役員会、納会

相談
支援
指導

OB会
＜情報把握の手段＞
・役員会で年間計画の進捗状況確認（歯止め）
・各イベントでの情報交換

全職員
部長
監督
コーチ

連携

現状把握

連携

連携

指導・支援

声掛け

相談

生徒・部員
・年３回のアンケート
・三者面談

野球部1年生
野球部2年生
野球部3年生

相談窓口

相談

保護者会
＜現状把握の手段＞
・各イベントでの情報交換
・三者面談
・顔色確認
・保護者会内ホットライン

相談窓口

関係部門が連携し再発防止に努める

相談窓口

掲示板

令和４年度	役割	名前	連絡先
学校	教頭	藤原　淳	入部説明会時にお伝えします
	各担任	-	
野球部	部長	船山　毅	
	監督	中泉一豊	
保護者会	会長	-	

※保護者会長は相談を受けた場合、判断せず、基本的には学校もしくは野球部へ
内容を伝える役割です。

宣言

再発防止に向けて

掲示板

・金足農業野球部は決まり事を遵守し、
「いじめ・暴力」の再発防止に努めます

・関係部門は再発防止年間計画が
実行されるように支援と協力を行います

・関係者は一人ひとりがコミュニケーションを心掛け
「いじめ・暴力」に繋がる案件は相談窓口へ打ち上げます

以上